

令和7年12月期 決算補足説明資料

令和8年2月9日

伝統と革新～100年先も選ばれる企業に
 **多木化学株式会社**
TAKI CHEMICAL CO., LTD.

証券コード：4025

目次

令和7年12月期 決算業績概要 3

令和7年12月期 業績概要（連結）	4
業績の推移（連結）	5
令和7年12月期 セグメント別業績（連結）	6
主要経営指標（連結）	7
貸借対照表（連結）	8
キャッシュ・フローの状況（連結）	9
キャッシュ・フロー関連指数の推移（連結）	10
配当の状況	11
連結経営指標等の推移	12

セグメント別実績 13

アグリ事業	14
化学品事業	15
不動産事業	16
建材事業/石油事業/運輸事業	17

「中期経営計画2028」進捗と業績予想について 18

「中期経営計画2028」基本方針	19
「中期経営計画2028」進捗について	21
令和8年12月期 業績予想（連結）	22

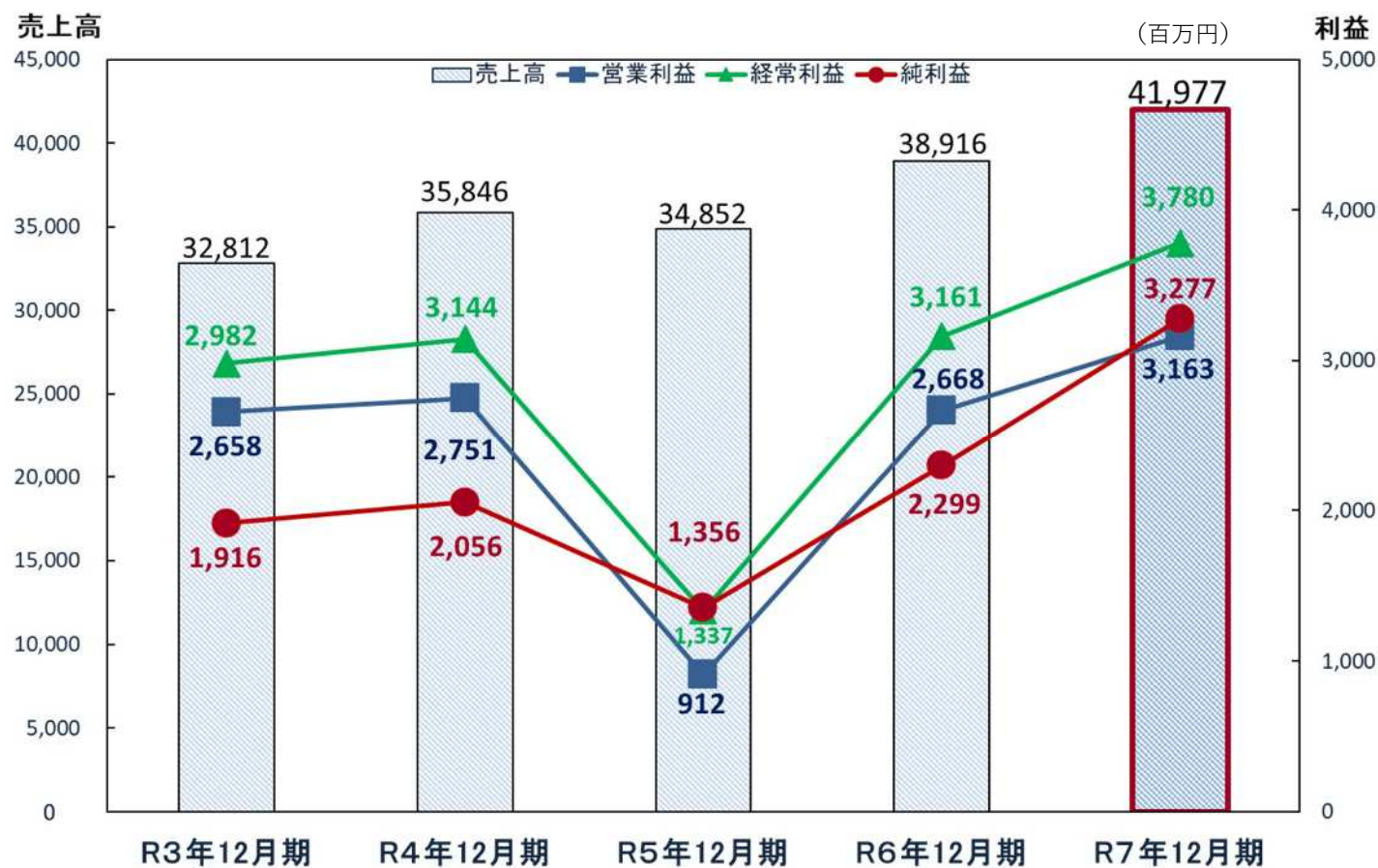
令和7年12月期 決算業績概要

■ 令和7年12月期 業績概要（連結）

（百万円）

	R6年12月期	R7年12月期	増減額	前期比
売上高	38,916	41,977	+ 3,061	+7.9 %
営業利益	2,668	3,163	+ 495	+18.6 %
経常利益	3,161	3,780	+ 619	+19.6 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,299	3,277	+ 978	+42.5 %
1株当たり 年間配当金（円）	55	75 （予定）	+ 20 （予定）	+36.4 %

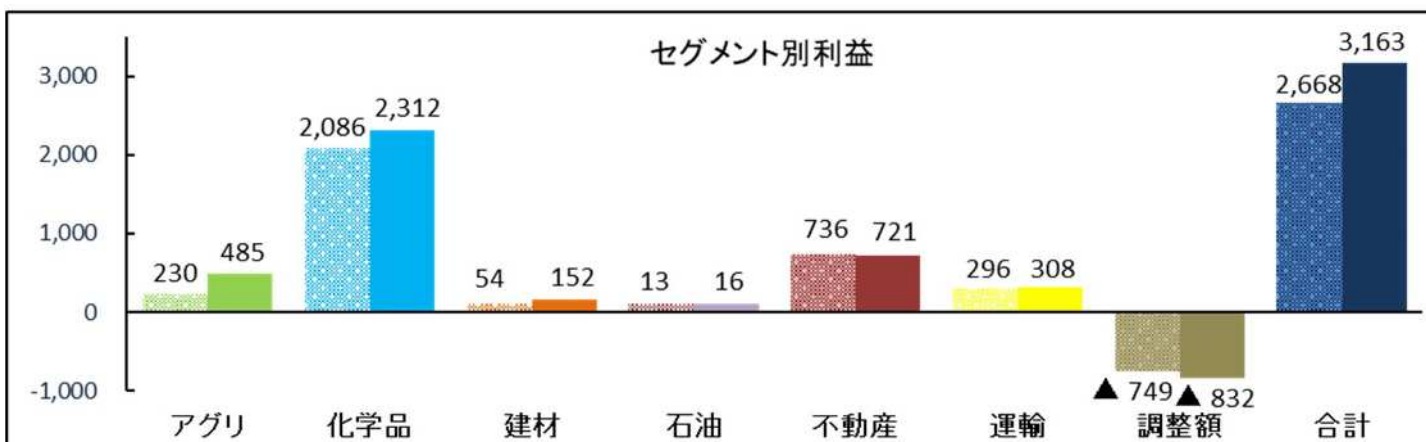
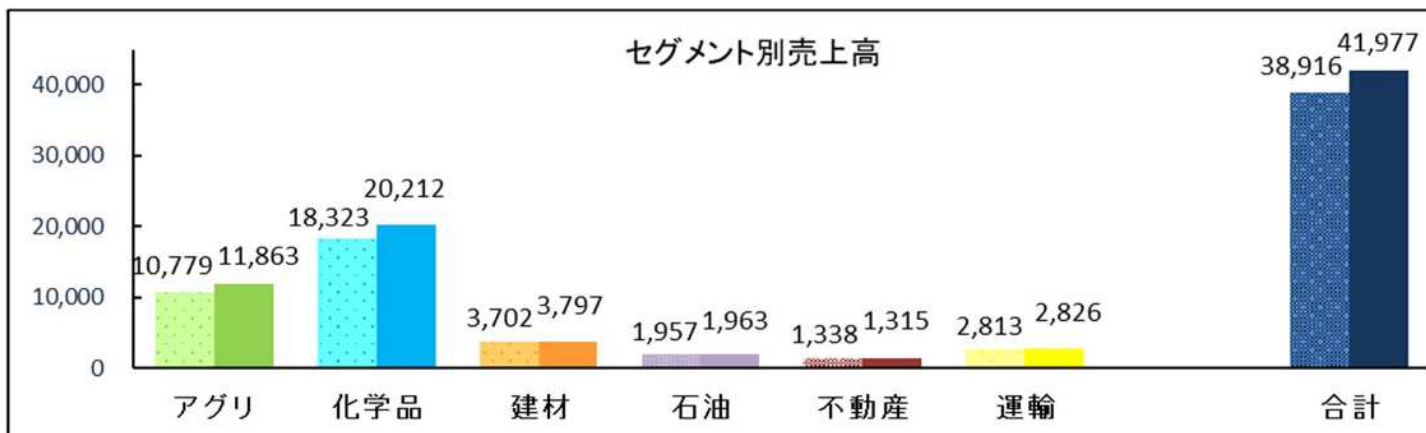
■業績の推移（連結）



令和7年12月期 セグメント別業績（連結）

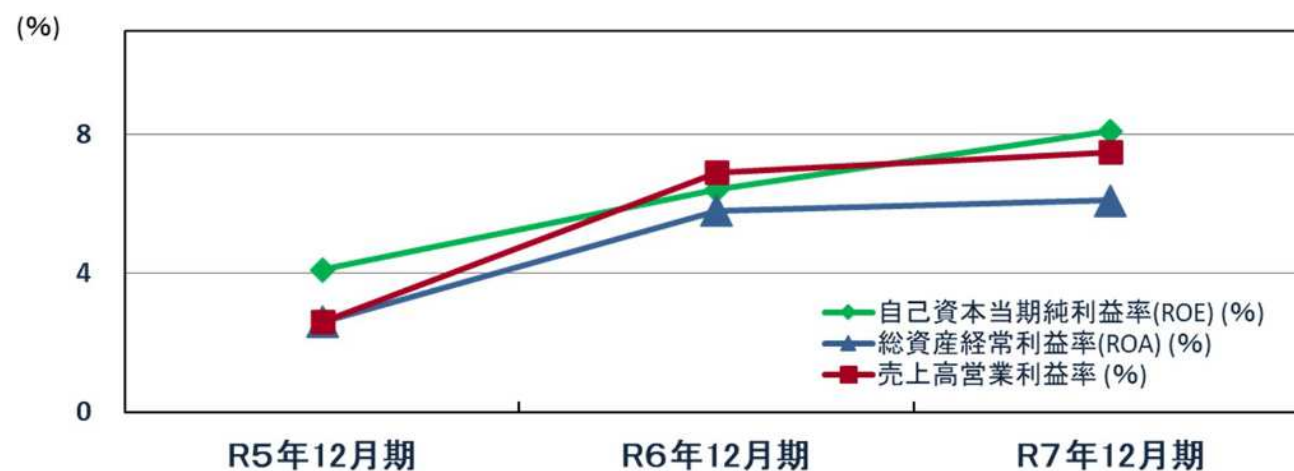
(左:前期 右:当期)

(百万円)



■主要経営指標（連結）

	R5年12月期	R6年12月期	R7年12月期
自己資本当期純利益率(ROE) (%)	4.1	6.4	8.1
総資産経常利益率(ROA) (%)	2.6	5.8	6.1
売上高営業利益率 (%)	2.6	6.9	7.5



■貸借対照表（連結）

（百万円）

		R6年12月期	R7年12月期	前期比
資産	流動資産	27,274	29,816	+2,542
	有形固定資産	16,990	17,771	+780
	無形固定資産	293	418	+124
	投資その他	13,844	17,646	+3,802
総資産合計		58,402	65,653	+7,250
負債	流動負債	10,489	11,150	+660
	固定負債	9,954	11,174	+1,220
負債合計		20,443	22,324	+1,881
純資産合計		37,959	43,328	+5,368
自己資本比率（%）		64.9	65.3	+0.4
1株当たり純資産（円）		4,468.46	5,143.16	+674.70

■ キャッシュ・フローの状況（連結）

（百万円）

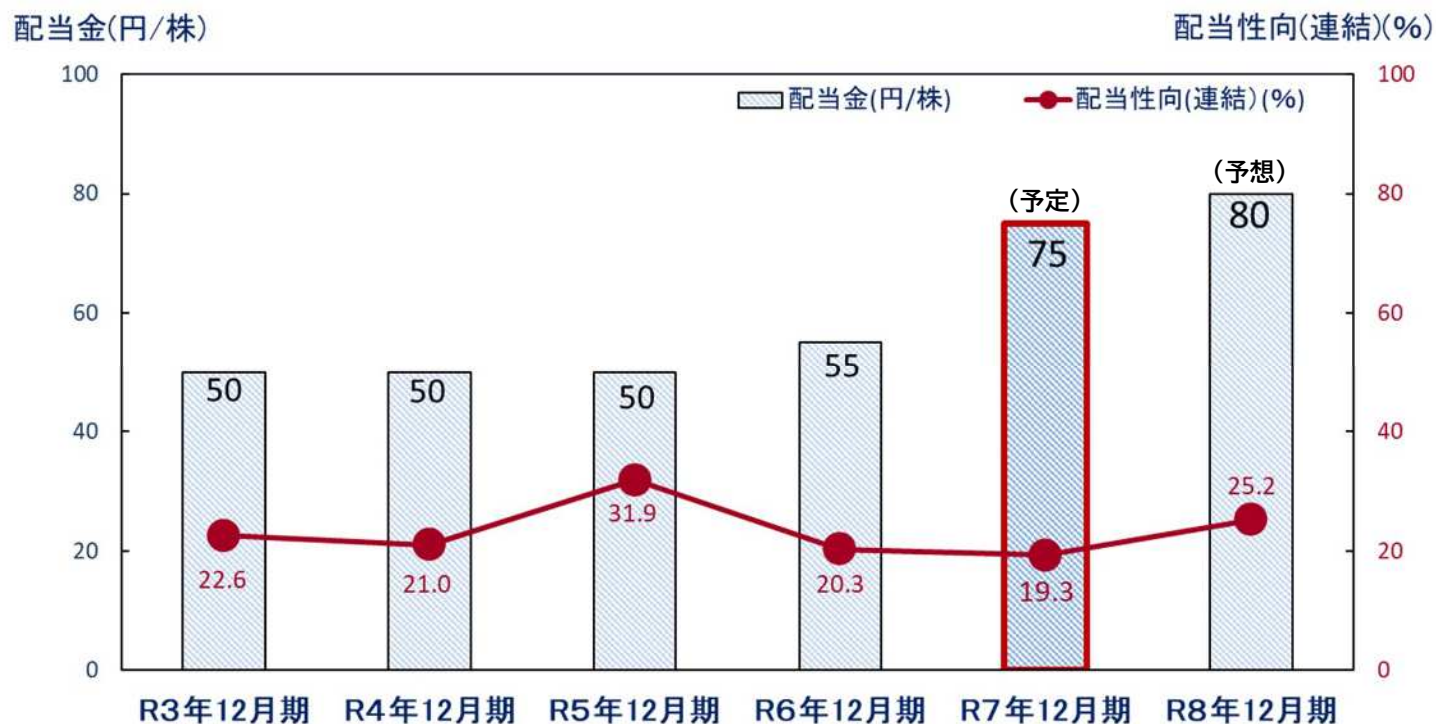
	R5年12月期	R6年12月期	R7年12月期
営業活動による キャッシュ・フロー	1,620	4,343	2,310
投資活動による キャッシュ・フロー	▲ 1,640	▲ 1,613	▲ 1,056
財務活動による キャッシュ・フロー	▲ 1,169	▲ 352	▲ 1,455
現金及び現金 同等物期末残高	5,075	7,458	7,256

■ キャッシュ・フロー関連指数の推移（連結）

	R3年 12月期	R4年 12月期	R5年 12月期	R6年 12月期	R7年 12月期
自己資本比率（%）	63.5	63.5	65.9	64.9	65.3
時価ベースの自己資本比率（%）	109.0	78.4	53.1	50.1	48.6
キャッシュ・フロー 対有利子負債比率（年）	1.0	1.8	1.6	0.6	1.2
インタレスト・カバレッジ・レシオ（倍）	222.1	118.3	135.6	347.2	139.7

■ 配当の状況

- 令和6年12月期は、1株当たり年間55円（普通配当 50円、記念配当 5円）としています。
- 令和7年12月期は、1株当たり年間75円（普通配当 60円、記念配当 5円、特別配当 10円）を予定しています。
- 令和8年12月期は、1株当たり年間80円（普通配当 80円）を予想しています。

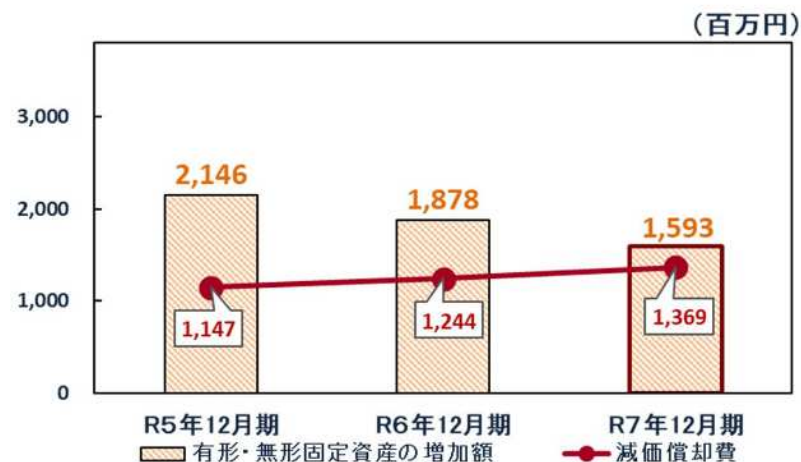


■ 連結経営指標等の推移

(百万円)

	R5年12月期		R6年12月期		R7年12月期	
		前期比		前期比		前期比
営業利益	912	▲ 1,839	2,668	+1,755	3,163	+495
有形・無形 固定資産の増加額	2,146	+1,351	1,878	▲ 268	1,593	▲ 285
減価償却費	1,147	▲ 134	1,244	+97	1,369	+124
EBITDA ※	2,059	▲ 1,973	3,912	+1,853	4,533	+620

※「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出



セグメント別実績

■セグメント別実績 -アグリ事業-



アグリ事業



経営成績等の概況

肥料の販売数量が増加したことや、販売価格が原料価格の上昇により値上がりし、売上高は118億63百万円と前期に比べ10.1%の大幅な増加となり、加えて生産方式の合理化などにより、営業利益は4億85百万円と前期に比べ110.9%の大幅な増加となりました。

	(百万円)	
	R6年12月期	R7年12月期
売上高	10,779	11,863
セグメント利益	230	485

■セグメント別実績 -化学品事業-



経営成績等の概況

水処理薬剤は、超高塩基度ポリ塩化アルミニウムの販売数量が増加したことに加え、原料価格の上昇に伴う販売価格の是正に努めたことにより、売上高は134億17百万円と前期に比べ11.8%の大幅な増加となりました。

機能性材料は、スマートフォン向け高純度酸化タンタルの販売数量が競争の激化により減少したものの、自動車関連セラミック繊維向け高塩基性塩化アルミニウム等の販売数量が好調に推移し、売上高は66億19百万円と前期に比べ7.3%の増加となりました。

その他化学品の売上高は1億75百万円と前期に比べ11.4%の増加となりました。

それらの結果、売上高は202億12百万円と前期に比べ10.3%の大幅な増加となり、営業利益は23億12百万円と前期に比べ10.8%の大幅な増加となりました。

(百万円)

	R6年12月期			R7年12月期		
売上高	水処理	11,198	18,323	水処理	13,417	20,212
	機能性	6,168		機能性	6,619	
	その他	157		その他	175	
セグメント利益	2,086			2,312		

■セグメント別実績 -不動産事業-



不動産事業



経営成績等の概況

ショッピングセンターの賃料収入は前期並みに推移したものの、賃貸物件の減少などにより、売上高は13億15百万円と前期に比べ1.8%の減少となり、営業利益は7億21百万円と前期に比べ2.0%の減少となりました。

	(百万円)	
	R6年12月期	R7年12月期
売上高	1,338	1,315
セグメント利益	736	721

■セグメント別実績 -建材事業/石油事業/運輸事業-



建材事業

(百万円)

	R6年12月期	R7年12月期
売上高	3,702	3,797
セグメント利益	54	152



石油事業

(百万円)

	R6年12月期	R7年12月期
売上高	1,957	1,963
セグメント利益	13	16



運輸事業

(百万円)

	R6年12月期	R7年12月期
売上高	2,813	2,826
セグメント利益	296	308

経営成績等の概況

建材事業：石こうボードの販売数量は減少したものの、販売価格が上昇したことにより、売上高は37億97百万円と前期に比べ2.5%の増加となり、加えてエネルギーコストの減少などにより、営業利益は1億52百万円と前期に比べ178.7%の大幅な増加となりました。

石油事業：燃料油の販売数量は需要の減退により減少したものの、販売価格が値上がりしたことにより、売上高は19億63百万円と前期に比べ0.3%の増加となり、加えて販売費及び一般管理費の削減などにより、営業利益は16百万円と前期に比べ28.1%の大幅な増加となりました。

運輸事業：物品販売は減少したものの、貨物輸送量や荷役量が増加したことにより、売上高は28億26百万円と前期に比べ0.5%の増加となり、営業利益は3億8百万円と前期に比べ3.9%の増加となりました。

「中期経営計画2028」 進捗と業績予想について

■ 「中期経営計画2028」 基本方針

◆ 基本方針

成長事業への積極的投資と新事業の創出

ライフサイエンス

- ・ 医療用材料事業の拡大
- ・ コラーゲン事業の確立
- ・ バカマツタケの事業化



機能性材料

- ・ ナノ材料の拡販
- ・ 技術革新による新用途、新商品の開発
- ・ 環境配慮型、社会課題解決型製品の新規開発



M&A、海外進出

- ・ 業務提携による事業拡大
- ・ 資本提携による多角化
- ・ 海外市場の開拓



既存事業の深化による収益力向上

アグリ事業の継続力強化

- ・ 生産・販売・在庫の最適化
- ・ モーダルシフトの推進
- ・ 環境配慮型製品の開発
- ・ アグリ関連新事業への進出



水処理事業の新展開

- ・ 超高塩基度PACの市場浸透
- ・ 新たな環境配慮型凝集剤の開発
- ・ 原料の安定調達とコスト削減



不動産事業領域の拡大

- ・ コンパクトシティ化
- ・ リノベーション事業およびフランチャイズ事業への進出検討



■ 「中期経営計画2028」 基本方針

◆ 基本方針

サステナビリティ・トランスフォーメーションの実践

気候変動への対応

- ・省エネルギーの推進
- ・再生可能エネルギーの導入
- ・サプライチェーンを含めた温室効果ガスの削減
- ・気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)への対応



人的資本経営の推進

- ・平等な機会提供と女性活躍の推進
- ・個別キャリアパスの構築と成長促進
- ・継続的スキル開発と最新知識習得のサポート
- ・円滑なコミュニケーションとフィードバック文化の構築
- ・従業員エンゲージメントおよび職場環境の向上、健康経営の促進



DXの推進

- ・RPAの活用および生成AIの導入による業務効率化
- ・ITリテラシーの向上
- ・ICTによる情報発信の多様化

GRCの推進

G：ガバナンス

- ・取締役会の実効性の向上と独立性の確保
- ・適時適切な透明性の高い情報開示の徹底
- ・監査等委員会との連携による監査、監督機能の強化
- ・ステークホルダーとのコミュニケーションの充実
- ・地域社会への貢献



R：リスク管理

- ・リスクマネジメント体制の強化
- ・定期的なリスクの見直しによるリスクマップの更新に基づく対応
- ・BCPに基づく事業継続性の強靭化
- ・情報セキュリティの強化



C：コンプライアンス

- ・強固なコンプライアンス体制の確立・浸透・強化
- ・内部統制システムの実効性の向上
- ・法令、規制変更への迅速な対応
- ・社内通報制度による問題の早期発見と自浄作用の強化

「中期経営計画2028」進捗について

- 令和7年度は、肥料及び水処理薬剤の販売数量の増加、原料価格の上昇に伴う販売価格の値上がりが進んだことに加え、各セグメントの事業が堅調に推移しました。
その結果、当社グループの業績は、連結売上高419億77百万円、連結営業利益31億63百万円、ROE8.1%となりました。

(百万円)

	R6年12月期 実績	R7年12月期 実績	R8年12月期	R9年12月期	最終年目標 中期経営計画2028	修正後最終年目標 中期経営計画2028
売上高	38,916	41,977			42,000	44,000
営業利益	2,668	3,163			3,000	3,500
自己資本当期 純利益率(ROE)	6.4%	8.1%			6.0%以上	7.0%以上

計画を
上方修正



※「長期ビジョンおよび中期経営計画」につきましては、当社ウェブサイト (<https://www.takichem.co.jp/>) をご参照ください。



■ 令和8年12月期 業績予想(連結)

● 令和8年12月期の連結業績は、肥料及び水処理薬剤などの販売価格の値上がりを見越し、売上高は増加となるものの、不透明な原料情勢を背景に営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は減少となることを予想しております。

(百万円)

	R7年12月期 実績	R8年12月期 業績予想	差異
売上高	41,977	43,000	+1,023
営業利益	3,163	2,450	▲ 713
経常利益	3,780	3,050	▲ 730
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,277	2,650	▲ 627
1株当たり 当期純利益(円)	389.05	317.79	▲ 71.26

● **ご注意**

本資料には、連結業績予想等の将来予測情報が含まれております。それらの情報は、本資料の作成時点において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々なリスク要因や不確実な要素により大きく異なる可能性があります。

● **お問い合わせ先**

多木化学株式会社 総務人事部

〒675-0131 兵庫県加古川市別府町新野辺3050番地

TEL：079-437-6002 FAX：079-437-8822

<https://www.takichem.co.jp/>



伝統と革新～100年先も選ばれる企業に